

発達障害について

名古屋掖済会病院 小児科 部長 長谷川 正幸

【はじめに】

「発達障害に気づかない大人たち」（星野仁彦、祥伝社新書）という本が出版されたのは2010年。かなり話題になったので、読まれた方も多いのではと思います。最近では「東大生の4人に1人はアスペルガー」という記事も出ました。発達障害は、風邪のように症状が分かりやすいわけではなく、一見「ふつう」に見えるため診断も遅れがちになります。「発達障害」なので小児期の問題と思われがちですが、実は「治る」わけでもなく、生涯付き合っていかなければなりません。少年犯罪が起こるたびにクローズアップされますが、実は大人になってもうまく人と関わりあうことができず、切れやすい、重要な仕事を忘れてしまった、など大人になっても問題を抱えていることが多く、折角大企業に就職しても辞めてしまってフリーターだとか、交通違反が多いとかで社会的問題となっています。いわゆる「KY」だとか「コミュ障」などもおそらくこれにあたります。ここでは、「発達障害」について理解を深めてもらうために、特徴を知って頂き、治療も含め解説したいと思います。

【発達障害とは】

人間の発達には3つあります。運動・知能そして社会性の発達です。このうち社会性の発達が遅れる場合を「発達障害」と言います。運動の発達が遅れる場合は「運動発達遅延」、知能が遅れる場合を「精神発達遅滞」と言って分けています。

では「社会性」とは何でしょう？人は1人で生きていくことができません。社会の中で皆と上手に生きていかなければなりません。「社会性」とは社会の中で他人とうまくやっていく能力、人間関係を形成し、円滑に維持していく上に欠かせない特質とされます。「社会性を身につける」とは、法律やルールを守り、暗黙の了解も理解し、相手の気持ちを慮ることができる能力を身につけることです。それができない、苦手なのが「発達障害児」です。主に2つの疾患が知られています。自閉症スペクトラム障害と注意欠如多動性障害です。どちらも長ったらしい名前なのでここでは「自閉症系」と「多動症系」とします。

自閉症系は広汎性発達障害と呼ばれていた時代もあります。上述したアスペルガー障害（アスペルガー症候群も同じ）も自閉症系です。人とうまくやるのが苦手、人とうまくやるためのコミュニケーション能力を身につけるのが苦手、こだわりや奇異行動など限定された行動が特徴です。アスペルガーは「言語発達遅延のない自閉症」とされ、この3要素の内コミュニケーション能力は身につけることが（比較的）可能な自閉症系です。非常にこだわりが強い、会話がかみ合わないなどが特徴です。

多動症系は、不注意（物を失くす、忘れ物が多い、ぼーっとする）、多動（落ち着きない、動き回る、多弁）、衝動性（順番が待てない、切れる、癩癩を起す）の3要素を合わせ持つ発達障害です。分かりにくい方は「サザエさん」を思い浮かべてくれると分かりやすいかも

しれません。財布を忘れて買い物に行ったり、人目を憚らずに弟を追い掛け回したり、他人の悪事について注意したり（勘違いが多いようですが）。見かたによっては注意欠如多動性障害の可能性が高いと思われます。そう考えるとちびまる子ちゃんやドラえもののび太、ジャイアンも多動症系と考えることができます。こういったロングセラーのアニメの主人公は「ああいう人いるよね」という人がなりやすいと言えます。それくらい「発達障害」の方は多いとされています。2年前に改訂された診断基準では20人に1人とされました。筆者の経験ではグレーゾーンも含め10人に1人と考えています。しかも、治りません。筆者が勤めている病院は名古屋市中川区にあり、人口約20万人の医療圏です。その中に1~2万人の発達障害の方がいることになります。ここでは決して珍しい疾患でないこと、少なくないことをご理解ください。

【診断】

診断は症状と特徴から行います。「この検査が陽性なので、あなたのお子さんは〇〇です」と言った検査はありません。アメリカ精神医学会が出している診断基準DSM5または国際疾病分類の診断基準ICD11に合致するかどうかで診断します。ただし、少し曖昧です。

また、保護者とのインタビュー形式で行った場合、その保護者の性格が表れます。慎重な方だと全て〇になりますし、大らかな方だと「そういうこともあるけど・・・男の子ならみんなそうよね」と×になります。それでも診断方法はこれしかありません。それが医師によって診断が異なり、見落とされる原因になります。

しかし、発達障害は遺伝性が証明されています。現在では責任遺伝子もほぼ同定されています。なので、近い将来は血液検査を行い「この値が陽性なのであなたのお子さんは自閉症スペクトラム障害です」とか「これが陽性なのであなたのお子さんは注意欠如多動性障害です」とか「どちらの遺伝子ももっているので、あなたのお子さんは自閉症と多動症の合併です」という時代が来ます。発達障害児の原因は遺伝と考えられています。つまり「生まれついでのもの」ということです。それに環境要因が加わって発症すると言われています。

しかし筆者はそのようには考えていません。「生まれつき」と考えています。でなければ「育て方が悪かった」という一昔前の原因が肯定されてしまいます。親御さんは育てにくさ、周囲からの非難など苦痛の中にいます。今後療育を続けていく上でも「あなたの育て方が悪かったからこうなった」とは言いたくありません。遺伝子レベルで決まったこととお話しています。ただし「反応性愛着障害」という疾患もあります。これは虐待、特にネグレクト（育児放棄）を受けた子どもが自閉症みたいな症状が出たり、多動症の症状を呈したりします。この場合、良好な成育環境を提供することで改善することが分かっています。

【特徴】

① 自閉症系の特徴

- ・ 一人遊びを好む（大人なら、一人でいることを好む）
- ・ 喜びや悲しみを他者と共有することをしない。好まない。
- ・ ことばの遅れ。
- ・ 顔の表情を読めない。比喩が通じにくい。空気を読めない。
- ・ こだわりが強い。融通がきかない。相手に合わせるができない。
- ・ パニックを起こす。切れる。癇癢を起す。
- ・ 知覚過敏。

② 多動症系の特徴

- ・ 不注意な間違いをおかす。物を失くす。忘れ物が多い。
- ・ 同じ間違いを繰り返す。
- ・ 探すのが苦手。
- ・ 嫌いなことをするのが苦手。
- ・ 姿勢が悪い。じっと座っていることが苦手。授業中の離席。
- ・ 落ち着きがない。
- ・ 順番が待てない。思ったことを口にする。
- ・ 思い通りにならないと手が出る。切れる。

いずれも一例です。他にもいろいろあります。また全ての症状が揃うわけでもありません。一般に我慢することができない、好きなことはするが嫌いなことはしないなど共通点も多くあります。前述したように自閉症系と多動症系両方合併することも稀ではありません。まずは特徴を整理し、問題点をリストアップすることが重要です。自閉症系のお子さんは冗談が通じにくく、曖昧さを嫌います。予定通りのことには対応できますが、イレギュラーな行事が入ると不安になったり、癇癢を起したりします。一方多動症系のお子さんは、予定通りにこなすことが苦手です。冗談は理解します。比喩表現も理解ができます。

ただ悪い面ばかりではありません。例えば自閉症系の方はこだわりが強いのでしっかり仕事をこなします。芸術家やスポーツ選手に多いとされています。多動症系の方は行動力があるとされています。サポートさえあれば「良きリーダー」になっていきます。

【治療】

治療には、心理行動療法と薬物療法があります。心理行動療法を行い、それでも改善がない場合は薬物療法というようにしていきます。ここでは心理行動療法を中心に話します。

基本的に、①本人の自覚、②どうすればいいか考える、③実行する、④続ける、が重要です。発達障害のお子さんは全て苦手です。「三日坊主」という言葉は多動症系のお子さんのためにできた言葉だと思えます。お子さんが小さい間は周りの大人が自覚し、対処方法を考え、

実行し、続けるといったところです。本人が大きくなったら（実際には小学校の高学年）本人にお話をして、自覚を持ってもらいます。

周囲の人は、①褒める、②約束をする、③自分で考えさせる、ことを徹底してもらいます。日本は「躰社会」ですので、叱ることが多くなります。叱ってみてもあまり効果はありません。カツオくんも叱られると「どうしてばれたんだろう。次はばれないようにしよう」と言います。叱って覚えたことは叱ってくれる人が近くにいないとできません。また叱られなければ「良い」ことになってしまいます。まずは叱ることを限定し、褒めることで「良い行動」を増やし、約束をすることで「悪い行動」を減らしていくことが基本です。

絶対にしてはいけないこと（自分に危害が加わること、他人に危害を加えることなど）を行った場合は叱ります。それ以外の悪いことは無視をします。まずは絶対やってはいけないことを覚えてもらいます。それ以外の悪いことは約束をすることで減らしていきます。

すぐにはできるようにはなりません。行動を振り返りながら、目標を設定していきます。上から注意をしたり、諭していても身についていきません。自分で考え判断していくように徐々に促していきます。時間がかかる作業ですが、大人になるまでに少しずつ目標を持って改善を促していくことが重要です。忘れやすい人はメモを取ったり、チェックリストを利用してもらっています。これは一生必要です。「習慣をつける」ことが重要です。子どもたちには「あとで」と言わないように指導します。後回しにすれば必ず忘れるからです。

【最後に】

発達障害の方はいっぱいいます。社会自体がこういった方々を受け入れ、皆でサポートしていくことが重要です。排除はできませんから。皆様の理解が進めば幸いです。

名古屋掖済会病院 小児科

〒454-8502

名古屋市中川区松年町4-66

Tel : 052 (652) 7711

Fax : 052 (652) 7783

URL : <http://www.nagoya-ekisaikaihosp.jp/>